

1 センター試験の英語について

センター試験が大学受験の標準になります。センターより易しいとかセンター程度といった言葉で問題レベルを表すことができます。

センター試験は、リスニング・発音・文法・読解ともに極めて標準的な問題で構成されており、高校の授業内容から大きく外れることはありません。センター試験対策の第一段階は、学校における授業の予習復習（特に復習）を丁寧にする事です。基本を丁寧に押さえ込んでおけば十分対応出来る問題ですから不安を抱く必要はありません。

総括：センター試験は日々の努力の積み重ねが結果に直結する。高3からの準備では、間に合わない。高一・ニから大学入試を意識して学習しなければならない。

2 国公立大学の二次試験について

一般的に現役生はセンター試験の準備で手一杯になりますが、二次対策をやっておかねば問題に手も足も出ないでしょう。少なくとも、夏には、センター試験の準備と平行して、二次試験の学習を始めるべきです。

総括：二次試験はセンターと全く違う。過去問に目を通してなるべく早く準備を始めなければ対応できない。

3 私大文系について

私立大学の文科系受験は一般的に、英語・国語・社会の三教科受験です。

合格するためには各教科70パーセント以上得点する必要があります。300点満点なら210点取る必要があるのです。中堅以上の私大の問題には、センター試験対策の学習だけでは対応できません。英検の準一級レベルの問題も出題されます。（学校で採用されているネクステ等の教材では私大の問題に完全対応するのは困難です。）

もうひとつ大事なことは、国語力です。英文読解においても昨今の入試問題は、国語的な読解力がない場合、得点が困難になっています。逆に国語力のある生徒は、英語力が不十分であっても、得点する確率は高くなるのです。国語力が安定していない場合、私大文系の受験は難易度が格段にあがるのです。最後に社会です。一般的に現役生が意識せずに学習して、受験までに社会を完璧に仕上げることは不可能です。社会に関しては、学校の進度にあわせて学習していたら、入試にまず間に合いません。高3の夏までに少なくともワンラウンド、自力で教科書を仕上げておかねばなりません。私大入試の日本史や世界史は、かなりの難問が登場します。実際の入試で70パーセント得点することは大変です。高3の三月から受験勉強をはじめたとすると10ヶ月弱の短期間で社会を仕上げることになります。現役生が、浪人生と戦って、中堅以上の私大に合格するためには、社会での高得点が必要不可欠です。英語に関しては浪人生の方が強いが、社会は、知識集約の要素が強いので現役生でも浪人生と互角で戦えるのです。

総括：教科数が少なくなればなるほど、それぞれの教科の実力完成度が問われる。科目数が少ない⇒一教科でも失敗すると回復困難。早い時期から、絞り込んだ学習を心がける。私大の問題は大学ごとに特色があるから赤本で傾向をつかんでおくことも必須である。

◎塾での英語の授業

高一・二是基礎文法中心に授業を行います。平行して学校の授業の予習復習等もサポートします。基本的に学校での授業が復習になるような授業構成です。

高二生は、文法と平行して読解の授業も行います。

高三生の授業は、夏期講習までは、文法の基礎力の完成を主眼にした授業展開になります。夏期講習からは、読解力・作文力を鍛え上げる授業になります。その後、センター対策と二次対策を、実戦的な問題を使用して行います。オリジナル教材をはじめ、入試用の教材は充実していますので、それらを駆使して実力養成を図ります。